

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371501046		
法人名	(有)スリーハンズ		
事業所名	グループホーム なでしこ 1階		
所在地	名古屋市名東区社口2-906		
自己評価作成日	平成22年12月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371501046&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371501046&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室		
訪問調査日	平成23年1月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

なでしこの花言葉のように「細やかな思いやり」をもって、入居者様の目線に立ち本人主体の生活支援をサポート出来るケアを目指しています。なでしこでは、家族や地域との交流を深める為夏祭りや餅つき大会等のイベントを企画し、家族様や近隣の方との楽しく過ごせる時間を大切にしています。また、開催時には家族会にも参加して頂き、意見交換等も行っており、地域での関わり、家族との関係を大切にしています。今後は、「終末期ケアに対する医療との連携や職員間でのチームケアに重点をおき、入居者さまにとって最期まで安心して過ごせる「家」として機能するよう、職員が一丸となって寄り添うケアを実践していきたいと思ひます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

住宅地にある開設6年目を迎えた「グループホームなでしこ」は、「その人らしい尊厳ある生活を大切に」を理念として、地域にも受け入れられるホームとなってきた。地域の祭り、運動会、防災訓練へ参加したり、ホーム主催の夏まつりやお餅つきには、大勢の地域の方達も来所され、利用者と交流し、地域ボランティアの受け入れも行っている。運営推進会議も行政関係者の参加等により、内容の充実が図られている。さらに、利用者の高齢化に対応したホームでの看取りについても前向きであり、職員の意識も高い。運営法人代表者は、職員の資質向上と資格取得を積極的に支援しており、昨年度にはケアマネ取得1人、介護福祉士取得5人が実現している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目の届くところに理念を掲示し、スタッフミーティングで読み上げ理念の共有に努めている。新人教育のオリエンテーションなどで意義を伝えている。	理念は「その人らしい尊厳のある生活を大切に」であり、事務室に大きく貼ってある。理念は、ミーティング時に読みあげて確認している。職員の理念の理解も深く、日々の支援の中で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の自治会に加入して行事への参加、回覧の配布、また地域での一斉掃除などに参加している。近所の方に週1回買い物等のお手伝いをして頂いている。	町内会に加入し、地域の清掃、祭り、防災訓練、運動会等に参加している。ホーム主催の夏祭り、もちつき大会には、地域住民も招待している。また、近所の方が、ホームの買い物の手伝いをしてくれたり、中学生の職場体験学習もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解をしていただけている。近所の方の協力により離設した方が施設に戻る、などのことも数回ある。日々近所への働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者へ提供している食事を参加者で食べたり、と施設での体験なども取り入れている。参加者からの声に重点を置き発言しやすいような場をつくるように取り組んでいる。	2か月毎に定期開催し地域包括支援センター職員も出席している。出席者には、利用者と同じ昼食を食べて頂き、感想を聞いたこともある。防災訓練、感染症対策、看取りの体制作り等、議題内容も充実してきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の指導を受けサービス内容を確認している。包括支援センターに運営推進会への参加をしてもらい協力を得ている。	市主催の介護保険事業者会議へ出席して、情報交換をしている。昨年度は指定とはならなかったが、グループホームの新規申請を行い、手続きや情報等での協力や指導等をいただいた。	行政との協働で、近所のコミセンなどで、介護講座を開くなど、認知症や高齢者についての知識を地域に広められることを検討されたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が方針に基づき拘束をしないケアを目指している。リスクなどを考慮して止むを得ない場合には本人または家族より書面による説明、同意をいただき期間を設定し見直しや検討をしている。	身体拘束はしないのが基本である。玄関は、夜間以外は鍵を掛けず、チャイムで感知し、見守り、気付きを徹底している。職員は、研修で身体拘束をしないケアについて、学び習得している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、スタッフミーティングなどで虐待についての勉強会を行い、全体での介護方針の理解、認識ができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員は把握できているが職員全体では把握不足である。活用している方については支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居希望者、家族に重要事項を書面、口頭での説明を行っている。事項の改訂時には十分な話し合い、また説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見や要望がもらえるよう管理者、職員からの声かけを行っている。また、苦情相談窓口、年2回の家族会などを開催し幅広い意見をもらえるように取り組んでいる。	家族会を年2回開催し、ホーム便りを年4回発行している。家族の来所は多いが、あまり来訪されない家族には、電話でオムツ等の生活必要品の状況を連絡し、来訪の機会を作っている。来訪時には、家族意見の吸収に努めている。	運営推進会議の議題が充実してきており、出席されない家族にも知らせたいと議題が多い。ホーム便りの発行頻度を増やすことも検討されたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回夏と冬に人事考課を行い、必要とあれば個別面談を行っている。管理者から声かけ、アンケートを使用し職員の意見把握に取り組んでいる。	ホーム長は、気さくに事務室で職員から相談を受けたり、一人ひとりの事情に配慮している。職員の提言で、利用者の衣類の入れ間違いについて、1週間に1度、タンス内の点検を実施することとした。さらに、脱衣場に肘掛椅子を設置をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への積極的な参加の取り組みや、職員の勤務状況、実績などの把握している。介護職員処遇改善交付金を活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実績や力量などの把握により個々にあった研修へ参加できるよう取り組んでいる。職員全体の介護技術の向上のためミーティングでの勉強会にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の管理者へ運営推進会への参加を呼び掛けている。また研修などで交流のあった同業者とのネットワークづくりに取り組んでいる。他施設への見学も積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係、希望、要望などの把握のため、傾聴する姿勢を大切にしている。本人からの相談があった場合は話しをよく聞き、できる限りのことには対応し、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からよく話を聞くことにより不安なことや困っていることを把握できるように努めている。来訪時には本人の状況などを伝え、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの施設利用などを把握し十分なアセスメントをした上で検討している。往診医や訪問マッサージの利用に関しての説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の自尊心を大切にしている。本人が役割感や存在感を得られるよう職員は興味あること、得意なことを把握し、それらのことが行えるような環境を整えることに取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のことはまず家族という考えのもと小さなことでも家族への報告、連絡、相談を行っている。行事への参加も積極的に呼び掛け、本人と家族がより良い関係が保てるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人から連絡が来た場合、関係が途絶えないよう電話対応や手紙などで支援している。知人や家族と一緒に、本人の馴染みの場所へ出かけることができるように支援している。	これまでの生活歴から、家族から絵手紙が来る人、書き初めを書く人、手紙を書いたり読む人、居室の表札を書く人、抹茶をたてる人、花を育てる人もいる。家族と外食、買い物に行く利用者もいる。ホームでは、馴染みの方との継続支援に力を入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わりや観察により利用者同士の関係の把握に努めている。苦手な関係の利用者には間に職員が入るなどし、良好な関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方に関しても連絡が来た場合には必要に応じて相談、支援を行っている。電話、手紙、電子メールなど窓口を幅広く対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期の段階では本人、家族の意向はセンター方式のアセスメント表を使用し、思いや意向を把握している。毎月のケアカンファレンスでスタッフ間で情報を提供、検討しプランに反映している。	利用者の幼い頃からの生活歴、職歴、仕事、趣味、出来ること、好きなこと等を、家族や本人から詳細に聞いて書面に残している。このように把握した個人歴から、利用者の思いや意向の把握や介護計画の作成に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過を把握して、これまでの生活の継続を大切にしたいその人らしい暮らしができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの潜在能力や活動する力に着目し、心身の状態を毎日チェックして家事やアクティビティへの参加を働きかけている。個々に合った生活のリズムを大切にして支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを毎月行い、スタッフ全員で課題や対応方法について検討し計画作成者がまとめている。モニタリングは三ヶ月に一回行い、変化があれば見直し検討している。	3か月に1回の介護計画の見直しを運営規定で定めている。月1回のカンファレンスで3～4人を、ユニット毎に、一人ひとりを全職員で検討している。モニタリングは各担当者が中心で行い、他の職員も気づきを提言している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事実を客観的にありのまま記録し、その時の状態、対応した内容などを記録してスタッフ間で情報を共有している。記録から得た情報を検討し、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応するため、家族、医療関係者との連携、地域の方の協力を得て、サービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員、北部地域包括支援センターの職員に出席してもらい地域資源との連携に努めている。地域のイベントに参加し、地域の方とのふれあいを楽しみ、連携を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療による往診医との連携を取りながら他科受診による専門医との連携も図り、以前の受診先の担当医から往診医にスムーズに移行できるように家族の理解を得ながら支援している。	提携医、かかりつけ医、訪問診療、訪問看護等を受診できる体制となっている。利用者の体調等を記した「ふれあいノート」を提供し、家族が通院する際の受診支援をしている。往診は2週間に1度、訪問診療機関から訪問している。	現在の4本立ての医療体制が少々分りにくくしていると思われる。家族からの要望も取り入れ、新たな医療体制を検討中とのことであるため、今後の体制整備を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護を利用している。また24時間体制の為、夜間の急変時にも連絡し指示を得るなど、常に連絡、連携がとれるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先にも出向き状況の把握に努めている。退院後の受け入れ体制を十分に行うため往診医との連携を図り、退院時の対応にも備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望を聞き要望に沿った説明を行っている。アンケートなどでも意向の確認をしている。終末期の説明には看護師からの協力も仰いでいる。職員の間でもケアの在り方について話し合っている。	家族に対しては、アンケートで終末期についての意向を把握、確認している。ホームで出来る限りまで、医師、家族、看護師の協力で過ごしている。重度の方もホームでの生活を希望されるケースがある。	終末期の看取りについての医療面での支援体制の確立、職員の知識及び意識の研修を充実し、家族の要望を受け入れる体制を構築されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時のマニュアルを作成し、ミーティングで対応方法を検討している。応急手当の方法は研修で学んで情報の共有はしているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に7回の避難訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練も行っている。地域を含めた防災訓練はまだ実施していないが近所の方には協力を得られるように努めている。	今年度は7回避難訓練を実施し、夜間想定訓練も実施している。2階の利用者2名は階段で1階へ下り、5名はベランダへ避難している。スプリンクラーは設置済みである。また、屋外の倉庫に食糧、水等を備蓄している。	地域住民との協力体制の強化を継続的に取り組まされたい。また、消防署立ち会いでの訓練も計画、実施をされることで、より緊急時体制を充実されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心に配慮した声かけ、対応に取り組んでいる。トイレや入浴時、本人の羞恥心に配慮しドアを閉めたり等、個別に合わせた対応を行っている。	利用者の些細な動きから、排泄の気配を察してトイレへ誘導している。シフトの都合で異性介助があるが、一人ひとりの思いや尊厳に配慮するように、管理者の指導等もあり、現在は違和感を感じる利用者はいない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝食ではパン、ご飯を準備して好きな方を選択して頂いたり自己決定できるような場を設けている。自己決定が困難な方には、家族より情報を得て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人一人ひとりのペース、個性を把握しその日の体調や思いを全体で捉えその思いに添った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理美容を利用して個人に合ったおしゃれを楽しんでもらっている。毎朝本人の希望にできる限り沿った整容ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする際、できる方にはもやしのひげ取り、ゴマすり、玉ねぎむき、包丁を使った簡単な作業できる環境を整えている。盛り付け、配膳なども役割感を持ち行っている。	主として、野菜は農協、肉、魚類は生協で購入している。その日ある食材で、利用者にも希望等聞きながら、6段階の基礎食品群をバランスよく考えて、職員が調理している。利用者は、主に後片付け、食器拭きを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に対応した形態(ミキサー・刻み食など)で対応している。栄養摂取量の確保が困難な方は、医師の指示のもと栄養補助食品などで補っている。水分は摂取表を使用し一日1200CC以上摂取を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに取り組んでいる。自己にて困難な方にも支援している。週一回歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握しできる限りトイレでの排泄に取り組んでいる。意思の疎通が困難な方でも小さなサインに気づけるように取り組んでいる。	原則として、ほとんどの方が、昼間は紙パンツを使用し、夜間はオムツの方もいる。さらに、夜間は2～3時間おきにトイレへ誘導している。職員は、利用者のちょっとした動きから排泄を察知して、トイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には繊維質の野菜などを多く取り入れるように心がけている。水分をこまめに提供したり軽い運動、散歩も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や要望を聞き取り組んでいる。又安全に支援できるようにシャワーキャリーなどを使用している。入浴のできない時は清拭、足浴を行っている。	原則、隔日入浴だが、毎日入浴する方もいる。拒否する方には、職員を代えたり、言葉かけを工夫し対応している。また、入浴以外に、清拭・足浴等も活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた入床時間を取り入れている。日中居室での休息時などには、本人の好みに合わせたCDをかけて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては医師、薬剤師から情報を得ている。薬が変更になった時は、本人の症状の変化に注意するように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割感を持っていただけるような支援に取り組んでいる。また、車を使った外出などで気分転換や刺激となるような時間を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体力を把握して散歩や買い物などの外出の支援を行っている。家族来訪時には共に外出して頂くような声かけを行っている。	ホームでは、近くのお寺等へは出来る限り毎日行くようにしたり、買い物に同行する方もいる。季節毎に花を見に行ったり、外食にも時々出かけている。利用者が重度化してきていることで、外出が困難になってきているが、外出の機会をつくることに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、自己にて管理している方はいないが、買い物などに同行し支払いのできる方には支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などから電話の取り次ぎや電話をかけたい時にかけるように支援している。手紙など読むことが困難な方には職員が読み伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高さの調整ができるテーブルを使用したり、それぞれに合った席の配置に工夫をしている。湿度が低い時は加湿器を使用し過ごしやすい環境を整えている。	ホーム内は、南に面して明るく、一角に畳部分があり、男性利用者が囲碁をしたりしている。居間には大きいテレビがあり、利用者が自由につけている。1階の居間からは、自由にウッドデッキに出て庭、菜園に下りられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やフロアに座椅子やソファを設置し気の合った同士が話をしたり、できることを一緒に行えるような居場所づくりに取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には好みの物や、使い慣れたものを使用し居心地の良い空間をつくっている。居室内でも、本人の好きな音楽も聴けるようにしている。	畳にふとんの利用者があるが、多くはベッド使用である。使い込んだダンス、椅子、テレビ、ポータブルトイレ等、一人ひとりが必要な品物を持ち込んでいる。居室入口の表札を自分で書いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに表札を付けわかりやすいようにしている。布製のカレンダーを使用し、利用者が日付、曜日の変更を行えるよう支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム なでしこ

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 12月 25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		日常生活の中で、個々に合ったケアに対しての見直し、介護技術向上に向けて取り組む	職員全員が同じ様なケアができるようにする	チェックシート(トイレ介助、お風呂介助、食事介助、就寝介助に分けて)を作り、3か月毎に確認し、合否をつけて次のケアに取り組む	12ヶ月
2		認知症への理解をより深め、問題行動への対応	問題行動(徘徊、介護拒否等)意味あるサインと捉え、問題点を少しでも理解ができるようにする	認知症対応等の研修への参加。職場内のミーティングでの勉強会を開き、職員全体の方針、考え方(ケアカンで話合った問題点)の統一を図る	12ヶ月
3		薬に関する重要性を認識する	薬の内容の把握。本人にとって何故その薬が必要か?を理解する。	ケアカンファレンスなどで勉強会を行う。医師、看護師、薬剤師などからの指導や説明を受ける。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月